



第 55 回

日本脈管学会総会が

10 月 30 日(木)～11 月 1 日(土)に
倉敷市芸文館にて開催されます。

当院からは、今井 崇裕 医師が
10 月 30 日に学術発表致しますの
でご紹介します。



下肢静脈瘤の治療後に Trousseau 症候群の合併を認めた 1 例

西の京病院 血管外科 今井崇裕

抄録

【はじめに】悪性疾患による凝固亢進で起こる深部静脈血栓症は Trousseau 症候群と定義される。担癌状態で凝固亢進状態が起こる原因は腫瘍細胞に発現する組織因子、腫瘍細胞から血中に分泌されるムチンの関与が指摘されている。当院で経験した Trousseau 症候群の 1 症例を報告する。

【症例】68 歳男性。既往歴は高血圧症。左下肢の熱感と疼痛で受診。超音波および静脈造影で大伏在静脈は全長血栓閉塞しており、深部静脈は異常なし。進行した 20 年来の下肢静脈瘤に起因する表在静脈の血栓性静脈炎と診断し、保存的加療の 17 日後に大伏在静脈ストリッピング術を行った。

【経過】経過良好であったが、術後 23 日目に左下肢の腫脹出現。D-dimer:24.5 μ g/mL と上昇、超音波で膝窩静脈から外腸骨静脈の深部静脈血栓症を認めた。発症早期で血栓の範囲を考慮して、IVC フィルター留置後に血栓溶解療法開始。深部静脈血栓症の原因検索で CEA:13.3ng/mL, CA-19-9:183U/mL と腫瘍マーカー高値。抗凝固療法中であったが、上部消化管内視鏡で胃体部全域を占める進行胃癌を認めた。腹部 CT で大動脈周囲リンパ節は腫大しており外科に転科となった。

【考察】血栓性静脈炎を伴う下肢静脈瘤は術後 23 日経過しており、深部静脈血栓症は悪性腫瘍に伴う凝固亢進状態による Trousseau 症候群と診断した。深部静脈血栓症は悪性腫瘍も考慮して原因検索を行うが、表在静脈の血栓性静脈炎でも下肢静脈瘤以外に深部静脈血栓症と同様原因を精査すべきであると思われた。

【結語】血栓性静脈炎から下肢静脈瘤の手術を経て、深部静脈血栓症を発症後に進行胃癌を認めた Trousseau 症候群の 1 症例を経験した。深部表在問わず血栓症では、悪性疾患も考慮すべきである。



会期 | 2014年10/30(木)-11/1(土)

会場 | 倉敷市芸文館 および周辺施設

会長 | 種本 和雄
川崎医科大学 心臓血管外科学 教授



第
55
回

日本脈管学会総会

The 55th Annual Meeting of Japanese College of Angiology

Vascular Team の新時代

演題募集期間

2014年5月14日(水)～6月25日(水)

総会事務局

事務局長 正木 久男

川崎医科大学 心臓血管外科学

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577

TEL:086-462-1111 FAX:086-464-1189

運営事務局

株式会社メッド

〒701-0114 岡山県倉敷市松島1075-3

TEL:086-463-5344 FAX:086-463-5345

E-mail: jca55@med-gakkai.org

